

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100413		
法人名	外海弘仁会		
事業所名	認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ		
所在地	長崎市神浦丸尾町1180番地3		
自己評価作成日	平成27年10月10日	評価結果市町村受理日	平成28年2月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成27年11月30日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ボンジュールそとめは長崎県民の森、神浦河川公園、池島炭鉱、大野教会、棚田ありでいろんな風景を楽しめます。お弁当を作り、ピクニック、ドライブ、散歩、地域の行事へ参加し、外出の機会も多いです。地域の方々からお花や野菜なども頂く事があります。ボンジュールでもお礼に粽、餅など届けたりする事で顔なじみになり、交流しています。学童の子供達と夏祭りを一緒にしています。防災、消防訓練は近隣の方に協力していただいています。年2回は消防署の指導で総合訓練を行い、毎月自主訓練をしています。職員全員が救命講習を終了し、AEDも備えています。地域に貸し出せるようにしています。長崎市消防署から緊急サポートステーションとして標章を交付されています。心肺蘇生法の訓練は定期的実施しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな場所に位置し、近くには海、川、山、棚田などがあり季節を通じていろいろな景色、風景を見ることが出来る。事業所の理念は①人としての尊厳を尊重します②地域で安心した生活を支援します③安全に自立した生活を支援しますというものであり、職員は理念を意識しながら日々のケアを行っている。地域との交流は盛んであり、運営推進会議での情報交換、地域行事への積極参加により、地域の人と顔馴染みの関係となっている。そのことにより災害時の協力体制構築なども可能になっている。事業所は様々な利用者の持てる力の継続のための支援を行っており、食事の下ごしらえ、準備、片付け、書道や手芸の支援を行い、利用者の生活習慣を支えている。利用者の表情は明るく元気で、その表情からも積極的に支援が行われていることがわかる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ  
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホーム内に掲示しています。虐待、身体拘束についてホーム内で勉強会を開き、日々の振り返りを行いました。対策を立てて、未然に事故防止を行い、地域へ出かけて楽しめる機会を作り、尊厳、安心、安全の生活が出来るように活動しています。	理念は地域密着型サービスの意義を考え、グループホームのあるべき姿を考えながら、職員全員で作成している。理念はホームの目に付きやすいところに掲示し、職員は理念を意識し、日々の支援に努めている。更に事業所は理念をもとに様々な研修を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化展への出展、見学や神浦散歩未知に出かけてみたり、朝市での買い物、学童の子供達と夏祭りをしたり、日常の散歩と顔なじみになり、交流の機会があります。	地域の自治会長に運営推進会議に参加してもらい、地域の行事などの情報を得ている。利用者は散歩などで、顔見知りの近隣の人と日常的に挨拶、会話を交わしている。事業所の夏祭りなどでは近隣の学童保育の子ども達と一緒に歌、ゲーム、被爆体験の話を行うなど交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の地域ネットワーク会議へ参加しています。地域のいろんな方と交流し、事例を一緒に考えたり、話をする事があります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には利用者も参加します。又ご家族様へは議事録を発送し、意見を求めたり、アンケートを取ります。	2ヶ月に1度、規程のメンバーで開催している。また、警察官、地域の商店の人の参加があり、事業所の実情、活動報告などを発信している。利用者家族の出席が少なく、運営推進会議にて家族アンケートでの意見聴取を行ったかどうかの意見が出たため、早速実行している例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加していただいているので、会議の場で実情やサービスの取り組みを伝えていきます。毎月のホーム便りも見ていただけるようにしています。	介護保険の改定時や介護報酬の加算の届出時に担当者に直接問い合わせしている。また、運営推進会議の報告やホーム便りを渡し、事業所の活動報告を行っている。更に介護相談員を受入れ、利用者の悩み相談に乗ってもらうことで、本人の悩み解決に繋がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進員養成研修へ今年1名が参加しました。その後ホーム内で勉強会を行い、具体的な事例を学び再確認しました。	今年度は看護師が1名、身体拘束廃止推進委員養成研修を受講している。研修内容は全職員に向けて勉強会で報告しており、今後、全職員に研修受講してもらう予定である。日中は玄関、窓は施錠しておらず、利用者が外に出ようとする際は、まずは見守りにて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても研修会で学んだ事の報告会、勉強会を行いました。再確認しました。又ご家族へはアンケートで虐待について考えていただき、虐待防止に努めました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がおられるので、其の制度を身近なものとして学習しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時重要事項説明書と運営規定を説明し、納得の上、入居手続きをとっています。改定時は説明分書を発行し、直接口頭で説明する事もあります。其の上で同意書をとっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の議事録をご家族へ発送し、ご家族の意見を記入していただき、アンケートも記入していただくようになっています。個別に職員が日常で聞き要望を取る事もあります。其の時は情報共有し検討しています	利用者の意見は、日々の生活の中で聞き取っており、家族の意見は面会時等、聴取に努めている。また、運営推進会議議事録送付時にアンケートを同封し、意見聴取を行っている。苦情解決のマニュアルがあり、書類等も整備し、苦情があった場合、家族へ報告し対応の結果を記録している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員で会議をしています。其の時に意見交換しています。	月に1回の会議では、活発な意見交換が行われており、必要物品の購入についての話など行っていることが確認できる。管理者は日々の業務の中で職員の意見を聞き、職員も利用者支援の為にどのようなレクリエーションを行ったらよいかなど、積極的に意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、各自がそれぞれの目標を立て、努力しています。自己評価し、管理者が面談し、成果を評価します。最終的に代表者が評価し、結果はボーナス、給与昇給へ反映します。勤務表に希望休日を取り入れ、日程の調整をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学研のナーシングサポート研修をインターネットで講義を受ける事ができます。法人での研修会、グループホームの研修会、県、市の研修会へも参加出来るようにしています。院内研修発表会もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ入会しているので、共に学ぶ機会があります。又近隣のグループホームで運営推進会議へ相互に出席し、意見交換する事でサービスへの向上に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と面談し聞き取りしています。リビングのテーブルの席で対人関係の良し悪しも見られるので、観察しつつ席の交代をする事もあります		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と面談し、不安な事困りごとは聞き取っています。出来るだけ要望に応じられるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の身体状況や介護度を考慮し、居室を変更したり、行きつけの病院受診や必要な買い物など必要に応じて対応しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いろんな話をする事や物作り、出来る事を手伝って頂くなど一緒に活動する事、日常生活で共に喜び、感激する事などで関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の子供様への手紙のやり取り、電話の取り次ぎをいつでもできるようにしています。希望があればご家族と外出、外食が出来るようにしています。面会時はお部屋でゆっくり面談できるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	絵手紙を出せるように支援、電話できるように取り次いでいます。面会にきていただいた方へ出入りしやすい雰囲気とお部屋で落ち着いて面談できる環境をつくっています。入居者様には玄関までお見送していただいています。	利用開始前に本人・家族から生活歴等の情報を聞き、本人が得意としていたこと等をケアに取り入れている。利用者の友人、知り合いが面会で訪問した時は、利用者と自由に寛げるよう配慮している。更に利用者の自宅近隣の人からの差入れがあるなど関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶、食事、おやつを皆でいただく事でくつろぎ、カルタ、トランプなどレクリエーションで関われるようにしたり、行事の準備や共同作業を行う事で関わる機会があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者と職員と一緒に、入院の為退去された方をお見舞いに出かけて、励ましています。又葬儀に参列する事もあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと個別面談しています。認知症が重度化し、聞き取り困難な方の場合、御本人様のしぐさなどで意思を確認し本人本位のケアに努めています	利用者が他の人に聞かれたくないような話があるときは、自身の居室などで1対1で話を聞いている。意思の表出が困難な利用者については、表情や様子などから汲み取っている。利用者の意向の共有は職員の日勤、夜勤交代の申し送り時に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入居された方には今までののサービス事業所から情報提供書を提供していただきます。御本人様やご家族様から生活暦や暮らし方を聞き把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に24時間の状態を記録し、気づいた事を記入する事と申し送りで次の日へ繋ぎ把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行っています。そこでご本人様の課題を話し合ったり、ご家族様へは電話連絡するなど、お手紙にしたり、面会時に話したり状況報告と意見を聞くようにしています	介護計画はケアマネージャーが原案を作成し、サービス担当者会議にて担当職員の意見を取り入れた後、全職員で検討し作成している。作成時には家族や医師等の意見も反映している。作成した計画は家族に説明し、同意を得ている。ただし、介護計画に沿ったケアが行われているかの確認は日々の記録からは確認しづらい状況である。	サービス向上、モニタリングの精度向上の為に介護計画に沿ったケアの確認ができるよう、記録の仕方を工夫されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に気づきを書いています。月に1度ケア介護を行います。情報共有し、見直しをしています。又個別でサービス担当者会議を行うので、介護計画の見直しもしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズに答えるよう、買い物、外出などその日のスケジュールや状況を考え、職員の配置を交代したり、柔軟に支援できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催させるふれ合いあったか文化展へ出展し、見学に出かけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回は院長回診があります。他の診療については必要に応じ受診しています。ご家族様へは受診状況を電話で報告したり、医師から直接治療状況を聞いていただくこともあります。	基本的に利用者は母体法人の医療機関で受診しているが、家族が別の医療機関の受診を希望する場合はそれを尊重している。かかりつけ医を変更する場合は、本人・家族の同意を得ている。母体法人の医療機関には医師が常駐しており、利用者の状態急変時にも対応可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師とバイタルや内服薬、治療状況を共有しています。急変時には日浦病院の外来看護婦とも連絡し、受診が速やかにできるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院にいたるまでの経過を情報を提供し、入院先の看護師へ伝達する事で安心して治療できるようにしています。病院の地域連携室と退院に向けて相談、又退院時は看護サマリーを提供していただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については重要事項説明書にて説明しています。終末期については未だ方針やその他いろいろ検討中です	事業所は看取りは行わない方針である。重度化した場合の対応は、重要事項説明書に記載しており、母体医療機関に入院できるよう調整を行う事としている。ただし、本人・家族が事業所での看取りを希望した場合にどう対応するか、医師は確保できるかなど方針を検討中である。	利用者や家族のニーズを汲み取りながら、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえて、体制を整えることを期待したい。また、職員研修等を行い対応力の向上に繋がることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が消防署の救命救急の講習を修了する事を義務付けています。ボンジュールでも定期的にダミー人形を使い、心肺蘇生法を訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回は消防署の指導下で訓練を実施します。近隣の方にも参加していただきます。他毎月、自主訓練を行い、出火場所を変えたり、川、海が近いので防災時の想定で訓練しています。職員全員が訓練が身につくようになります。	毎月、様々な災害を想定した避難訓練を行っており、火災想定消防署立会いによる避難訓練は年2回行っている。地域住民の参加もあり、夜間想定訓練も行われている。自動通報装置により消防署に通報すると職員にも伝わる仕組みとなっている。水、食料などの備蓄品の備えもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護の内部研修を受けました。言葉使いに気を配り、排泄の失敗時にもプライバシーに気をつけて、他の方に分からないように気をつけています。	利用者に対してぞんざいな言葉遣いで接していないか、職員同士で意識し、気になる場合は確認を行っている。排泄の失敗時の介助は、他の利用者気づかれないようさりげなく行っている。職員採用時に守秘義務の誓約書を得ており、個人情報ファイルは事業所の適切な場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションを大切にし、会話や態度から要望を察し、気づいた事を職員間で申し送り、共有しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分を考慮し一人ひとりのペースに合わせた起床時間、食事、散歩と行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に応じ理、美容院への支援をしています。訪問美容もあります。髭剃り、顔そり、爪きりを行います。衣服はご自分で選び着ていただきますが、チグハグになっていないか、アドバイスして身だしなみを整えていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いへの方には代替品、食べにくい方へのほぐし食、軟飯と個別対応をしています。出来る方にはメニューを考え、買出し、調理手伝いをさせていただきます。弁当を作りピクニックに出かける。お食事処での外食も楽しみになっています。	利用開始前に好き嫌いを本人から聞いている。食事の下ごしらえ、配膳などの準備、後片付けを利用者に手伝ってもらうこともある。ピクニック時に手作りの弁当を用意したり、近くの飲食店へ外食に出掛けたり、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の日浦病院の管理栄養士が立てた献立表で作るので、栄養バランスは取れています。毎食の食事量のチェックで確認しています。食欲のない人には工夫しています。エンシュワの補助食品も処方していただく事もあります。水分補給も時間毎にしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食歯磨きしていただいている。出来ない方には職員が介助しています。協力歯科で定期歯科受診するように支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄が出来るように、声掛け、誘導、介助をしています。	排泄パターンはチェック表にて把握し、適宜トイレ誘導を行っている。身体的介助が必要な利用者でも便意、尿意はあるため、トイレでの排泄支援を行うことでおむつ着用とならないよう支援している。トイレでの排泄が利用者はもとより、職員の負担軽減に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前にヨーグルトや牛乳を飲んでいただく事水分が不足しないようにしています。下剤の服用で身体への悪影響がないように調整しています。ラジオ体操などの体操、散歩や個別の体操を行い、身体を日常動かすようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回は入居者全員がゆっくりお風呂に入れるように組んでいます。しかし、その日の気分、体調もある為柔軟に入れるようにしています。入浴が困難な方には職員二人介助で行います。蓬風呂で皮膚の痒みが取れたと大変喜んでおられる方もいらっしゃいます。	入浴日は週3日、時間帯も決めているが、日曜日を除いて毎日沸かしているため、本人の希望があれば柔軟に対応している。車椅子の利用者も2名介助で湯船に浸かってもらえるよう支援している。皮膚疾患の利用者にはよもぎ風呂を用意し提供しており、経過が良いと喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や体操、レクリエーションで程よい活動と休息のバランスを保ち、自室やリビングのソファーでくつろげる事、夜はゆっくり自然な眠りが出来るように静かな環境を整えています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方は一ひとりの薬局からの説明書をファイルに閉じて確認しています。変更時は申し送り、その後の症状を観察し、医療機関との連携に繋いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割活動、趣味活動など努力への励まし、感謝の気持ちを職員が持ち、形として勤労感謝の日には感謝状をクリスマスには手作りのクリスマスカードで職員のコメント入り写真付をさしあげています。いつも眺めておられる方がいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩、外出又行事としてピクニックや花見、地域の行事など外出の機会が多いです。ご家族と外出や外食も希望があればできるようにしています。お墓参りに出かける方もあります。	年中行事に外出を計画し、月1回は外出している。ドライブやお花見などで車椅子の利用者も出掛けしている。その日の利用者の希望により散歩や理容院の利用、買い物に出掛けたり、家族の協力を得て墓参りに行くなどさまざまな外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方はご自分で持ち、買い物が出来るようにしています。管理が出来ない方には事務所の金庫で預かり、必要に応じて渡しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使えます。又ご家族からの取次ぎもしています。時には手紙を出せるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、写真、各自の作品など飾っています。トイレや居室は表示しています。換気扇、冷暖房で適温で管理、又自然の風が入るように窓の開閉をしています。室内は昼間も蛍光灯で明るくしています。	利用者がレクリエーションで作成した季節の塗り絵などを掲示したり、季節の花を飾るなど季節を感じるリビングである。テレビの音量など利用者同士意見が合わないときは、居室でのテレビ鑑賞を進めている。温度・湿度は職員が管理しており、掃除や換気は毎日行い、快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が思い思いに自分の好きな所でテレビ、新聞を見たり、ソファで転寝やお喋りされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人持込の家具とボンジュールで備え付けの箆笥があり、話し合いつつ配置換えを時々行い、居心地や空間を考え移動します。家族写真やご自分の作品を掲示したり、其々の部屋で違います。	居室は利用者の馴染みの椅子、布団、シーツなど様々なものが持ち込まれている。また、職員が提案して写真や利用者の習字の作品などを貼り、その人らしい居室となっている。掃除は職員が毎日行い、利用者は箆などで一緒に掃除することもある。清潔で、居心地のいい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターがあり、ご自分で操作してリビングと2階と移動されています。元気な方は階段を利用されています。階段、トイレ、リビングと手すりが取り付けられています。トイレや居室には表示をしています。		